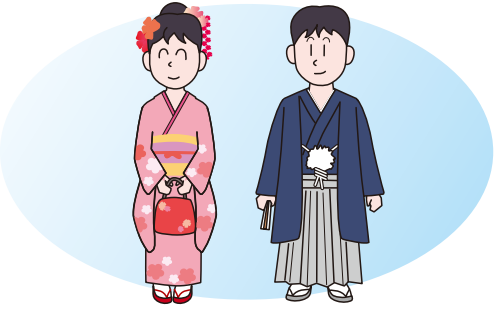
平安時代の成人式、「十三詣り」

数え年で13歳になった男女が行う伝統行事「十三詣り（じゅうさんまいり）」。その由来は何でしょう。

諸説ありますが、平安時代の清和天皇が13歳の時に、京都の法輪寺で行った成人の儀だと言われています。

法輪寺の本尊「虚空蔵（こくうぞう）菩薩」は13番目に生まれた菩薩で、人々に知恵を授けるとされています。これがもととなり、一般の人も虚空蔵菩薩を祀る寺社で祈祷を受ける「十三詣り」が、関西を中心に広まったと考えられています。

お詣りは旧暦3月13日（＝新暦4月13日）ですが、現在は「3月13日～5月13日」が一般的なようです。

13歳で成人式は早いように感じますが、子どもが知恵を授かり、今後の健やかな成長を願う親の気持ちが込められているのですね。